【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和4年2月22日(2022.2.22)

【公開番号】特開2020-177038(P2020-177038A)
【公開日】令和2年10月29日(2020.10.29)
【年通号数】公開・登録公報2020-044
【出願番号】特願2019-76852(P2019-76852)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　5/20(2006.01)
Ｇ０３Ｆ　7/004(2006.01)
Ｇ０３Ｆ　7/027(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　5/20　１０１
Ｇ０３Ｆ　7/004５０５
Ｇ０３Ｆ　7/004５０４
Ｇ０３Ｆ　7/004５０２
Ｇ０３Ｆ　7/027

【手続補正書】
【提出日】令和4年2月14日(2022.2.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
顔料（Ａ）、分散剤（Ｂ）、光重合性単量体（Ｃ）、および光重合開始剤を含み、
前記分散剤（Ｂ）は、直鎖状の酸性樹脂型分散剤（Ｂ１）、および　　形の酸性樹脂型分散剤（Ｂ２）を含み、
前記光重合性単量体（Ｃ）は、３以下の重合性官能基を有する光重合性単量体（Ｃ１）、および３を超える重合性官能基を有する光重合性単量体（Ｃ２）を含む、カラーフィルタ用着色組成物。
【請求項２】
直鎖状の酸性樹脂型分散剤（Ｂ１）および　　形の酸性樹脂型分散剤（Ｂ２）は、それぞれ芳香族カルボン酸構造部分と、エチレン性不飽和単量体をラジカル重合してなるビニル重合体部分とからなり、エチレン性不飽和単量体をラジカル重合してなるビニル重合体部分のガラス転移温度が－１０℃以上である、請求項１に記載のカラーフィルタ用着色組成物。
【請求項３】
さらに塩基性樹脂型分散剤（Ｓ）を含む、請求項１または２に記載のカラーフィルタ用着色組成物。
【請求項４】
さらに紫外線吸収剤（Ｅ）を含む、請求項１～３いずれか１項に記載のカラーフィルタ用着色組成物。
【請求項５】
さらに、顔料吸着剤を含む、請求項１～４いずれか１項に記載のカラーフィルタ用着色組成物。
【請求項６】

請求項１～５いずれか１項に記載のカラーフィルタ用着色組成物から形成されてなる、フィルタセグメント。
【請求項７】
基板、および請求項６記載のフィルタセグメントを備える、カラーフィルタ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
また、本発明は、さらに、顔料吸着剤を含む、上記カラーフィルタ用着色組成物に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
（顔料吸着部位（ｘ））
顔料吸着部位（ｘ）は、顔料（Ａ）に吸着し、後述する顔料吸着剤の官能基との間で塩を形成可能な官能基を有する。顔料吸着部位（ｘ）が酸性官能基を有する場合は、例えば、スルホン酸基、リン酸基、カルボキシル基が挙げられる。同じく塩基性官能基を有する場合は、例えば、１級、２級、３級アミノ基等が挙げられる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
＜顔料吸着剤＞
本発明の着色組成物は、顔料吸着剤を含むことができる。ただし、顔料吸着剤は、直鎖状の酸性樹脂型分散剤（Ｂ１）、　形の酸性樹脂型分散剤（Ｂ２）、塩基性樹脂型分散剤（Ｓ）である場合を除く。
着色組成物は、顔料吸着剤を含むと顔料分散性がより向上する。また、断面形状の向上に寄与することがある。顔料吸着剤は、顔料吸着基を有する化合物である。顔料吸着剤は、顔料（Ａ）に吸着し、かつ分散剤（Ｂ）が顔料吸着剤に親和することで顔料の安定的な分散に寄与する。顔料吸着剤は、例えば、塩基性基を有する色素誘導体、酸性基を有する色素誘導体、顔料誘導体、アントラキノン誘導体、トリアジン誘導体、ベンズイミダゾロン誘導体、アクリドン誘導体が挙げられる。
塩基性基または酸性基を有する色素誘導体としては、有機顔料、アントラキノン系化合物、トリアジン系化合物、ベンズイミダゾロン系化合物、アクリドン系化合物等が挙げられる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】
顔料吸着剤の顔料吸着基は、酸性基、塩基性基が好ましく、塩基性基がより好ましい。以下、顔料吸着剤の好ましい態様として塩基性基を有する色素誘導体（Ｑ）を説明する。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８５】
顔料吸着剤の含有量は、着色組成物の不揮発分１００質量％中、０．５～５質量％が好ましく、１～３質量％がより好ましい。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８６】
顔料吸着剤は、単独または２種類以上を併用して使用できる。